

作文 4・5・6年の部

【最優秀賞】

お米の秘密

泉台小学校 六年 塩川 聡大

ぼくは、毎日何気なくお米を食べています。しかし、ぼくの家のお米は他のお店などよりもさらにおいしいことに気づきました。

ぼくは、いつも当たり前のように食べているお米が、なぜこんなにおいしいのだろうかと思ったので、毎年お米を作っているおじいちゃんに、

「なぜ家のお米はこんなにおいしいの。」と、聞いてみました。するとおじいちゃんは、「有機肥料を使っているから。」

と言っていました。有機肥料とは、自然界から直接取れる有機物を原料とした肥料のことです。土じょうのび生物活動を活性化させる効果があります。これにより、健康で豊かな作物を育てることができます。そして、「いねいに愛情を込めて作ったり管理しているから。」

とも言っていました。ぼくは、毎日田んぼの管理をしているのがすごいと思いました。ぼくだったら、大変だからあきらめてしまってしまうと思います。愛情を込めて作るのとても大切だと思いました。思いが込もってないと、おいしくできないと気づきました。

このように、おじいちゃんは点検をしたり有機肥料を使ったり、愛情を込めていねいに作っていることがわかりました。それを知ってがんばってお米を作ってくれているおじいちゃんがすごいなと思いました、毎日、このお米を食べられていることをうれしく思いました。

さらに、ぼくはお米を植えてしゅうかくしたけいけんがあります。この作業がとても大変だったので、ほとんど一人でやっているおじいちゃんはすごいなと思いました。

これからも、ただお米を食べるだけではなく、作っている人の努力に感謝して、おいしく食べたいです。

【優秀賞】

わくわくした初めての田植え

常盤小学校 五年 藤井 心晴

ぼくは、今年初めて田植えをしました。何もない田んぼにトラクターで「代かき」をして、そこに「すじつけ」をして田植えの準備をしました。

田植えをする前の段階でも、時間や多くの人の力が必要な作業だと思いました。

そして、実際に田植えをしてみると、「足が思うように動かなかったり、同じ間かくで植えるのがむずかしかったりして、体力を使う大仕事」だと分かりました。

ぼくは、これまでおばあちゃんの畑で、野菜をしゅうかくしたり、たがやしたりしたことがあります。でも、田植え作業とは大きくちがいで、水があるだけで何倍も疲れました。ぼくが今までふ通に食べていたお米が、これほど苦労して作られているとは、思ってもいませんでした。また、お米を作る人が少なくなり、高れい化していると、先生やお父さんからも聞きました。

ぼくは、おじいちゃんやおばあちゃんが作ってくれるお米が甘くて大好きです。これからもこのお米をずっと食べたいし、みんなにもお米のおいしさを伝えていきたいと思っています。だから、田植えは大変だったけど、苗が毎日少しずつ伸びていく様子を見て、早くしゅうかくしておいしいお米を食べたいと今はとてもわくわくしています。ぼくは、しゅう来なんの仕事をするか分かりませんが、農業は大変だけど楽しさもあることを忘れずに、おばあちゃんやおじいちゃんの農業の手伝いをして、農業について学んでいきたいと思っています。

【優良賞】

大好きなおおばあちゃん

泉台小学校 四年 澤田 心音

私は、おおばあちゃんに、ありがとうの気持ちを伝えたいです。

私のおおばあちゃんは、家の周りに六か所の畑があって、そこで野菜を育てています。

畑をたがやすのは、おじいちゃんがやってくれるけど、ひ料をまいたり、うねを作ったりするのはおおばあちゃんがやっています。なえも、三月ぐらいから、たねをまいて育てています。おおばあちゃんは、毎朝なえに向かって、

「おはよう。元気かい。」と声をかけながら、育てています。

だからおおばあちゃんは、大切に育てきたなえをうれしそうに畑に植えています。なえが大きくなってきて、野菜ができてくると、楽しみながらしゅうかくをしています。初めてしゅうかくできた野菜は、

「初どりだよ。」とうれしそうに教えてくれて家族みんなでわけて食べます。みんながおいしそうに食べていると、おおばあちゃんは「いい」しています。

私も学校で畑を作りました。おおばあちゃんか、

「上手にできたね。家のよりおいしいね。」と笑っていました。

おおばあちゃんにそう言ってもらえてとてもうれしかったです。

しゅうかくするまでには、うねを作ったり、たねを育てたり、草とりをしたり、水くれをしたり、大へんでした。でも、おおばあちゃん一人でその仕事をやっていてすごいなと思いました。

だからおおばあちゃんにありがとう伝えたいと思いました。

これからもいっしょに遊んだり、おいしい野菜を食べたいから長生きしてね。